【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成18年11月9日(2006.11.9)

【公表番号】特表2006-502200(P2006-502200A)
【公表日】平成18年1月19日(2006.1.19)
【年通号数】公開・登録公報2006-003
【出願番号】特願2004-541653(P2004-541653)
【国際特許分類】
Ｃ０７Ｆ　5/02　(2006.01)
Ｃ０７Ｃ 211/63　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０７Ｆ　5/02　Ａ
Ｃ０７Ｃ 211/63

【手続補正書】
【提出日】平成18年9月25日(2006.9.25)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
アルカリ金属のテトラキス（^{F}アリール）ホウ酸塩が液状のエーテル媒体または液状のヒドロカルビル媒体に入っている溶液またはスラリーからテトラキス（^{F}アリール）ホウ酸プロトン性アンモニウム、テトラキス（^{F}アリール）ホウ酸オニウムまたはテトラキス（^{F}アリール）ホウ酸トリアリールメチル［ここで、前記^{F}アリール基は、各々、フッ素含有アリール基であり、これらの各々の芳香環にフッ素原子が少なくとも２個か或はパーフルオロヒドロカルビル基が少なくとも２個か或はフッ素原子が少なくとも１個とパーフルオロヒドロカルビル基が少なくとも１個直接結合している］を生じさせる方法であって、
ｉ）　前記アルカリ金属のテトラキス（^{F}アリール）ホウ酸塩を単離することなく前記液状のエーテル媒体または液状のヒドロカルビル媒体を少なくとも１種のハロゲン置換炭化水素で置換することで新しいスラリーまたは溶液を生じさせ、そして
ｉｉ）　ｉ）で生じさせた前記新しいスラリーまたは溶液の少なくとも一部を
ａ）　プロトン性アンモニウムカチオンが式［R_3NH］$^{+}$［式中、各Ｒは独立して炭素原子を３０個以下の数で含有するヒドロカルビル基である］で表されるプロトン性アンモニウム塩、
ｂ）　オニウムカチオンが式［ER_n］$^{+}$［式中、Ｅは周期律表の１５－１７族のいずれかの元素であり、各Ｒは独立して炭素原子を３０個以下の数で含有するヒドロカルビル基であり、そしてｎはＥの原子価＋１に相当する］で表されるオニウム塩、および
ｃ）　トリアリールメチルカチオンが中心の炭素原子と結合しているアリール基を３個有するトリアリールメチル塩、
から選択した塩と一緒に混合することを含んで成る方法。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２６】

本明細書または本明細書の請求の範囲のどこかで化学名または式を用いて反応体および成分を言及する場合、この言及が単数であるか或は複数であるかに拘らず、それらが別の物質［化学名または化学タイプで言及する］（例えば別の反応体または溶媒など）に接触する前にそれらが存在するようにそれらを同定すると理解されるべきである。結果として生じる混合物または溶液または反応媒体中でどんな予備化学変化、変換および／または反応（もしあれば）が起ころうとも問題でない、と言うのは、そのような変化、変換および／または反応は指定反応体および／または成分を本開示に従って要求する条件下で一緒にする結果として自然に起こる事であるからである。従って、反応体および成分を所望化学反応の実施に関連してか或は所望の反応を実施する時に用いるべき混合物を生じさせる時に一緒にすべき材料として識別する。従って、本明細書に示す請求の範囲で物質、成分および／または材料を現在時制（「含んで成る」または「である」）で言及することがあり得るかもしれないが、そのような言及は、本開示に従ってそれを他の１種以上の物質、成分および／または材料に最初に接触、ブレンドまたは混合する直ぐ前の時間にそれが存在していたように当該物質、成分または材料を指すものである。反応を実施する時にインサイチュで如何なる変換（もしあれば）が起ころうとも、それは本請求の範囲に包含させることを意図する変換である。従って、ある物質、成分または材料はそのような接触、ブレンドもしくは混合操作過程中に起こる化学反応または変換を通してそれの元々の同定を失う可能性があることは、そのような操作を本開示に従いかつ化学者の常識および通常の技術を適用して実施するならば、本開示および本請求の範囲の真の意味および実質の正確な理解および評価にとって全く重要でない。

本発明の好適な実施の態様は次のとおりである。

１．　アルカリ金属のテトラキス（^{F}アリール）ホウ酸塩が液状のエーテル媒体または液状のヒドロカルビル媒体に入っている溶液またはスラリーからテトラキス（^{F}アリール）ホウ酸プロトン性アンモニウム、テトラキス（^{F}アリール）ホウ酸オニウムまたはテトラキス（^{F}アリール）ホウ酸トリアリールメチル［ここで、前記^{F}アリール基は、各々、フッ素含有アリール基であり、これらの各々の芳香環にフッ素原子が少なくとも２個か或はパーフルオロヒドロカルビル基が少なくとも２個か或はフッ素原子が少なくとも１個とパーフルオロヒドロカルビル基が少なくとも１個直接結合している］を生じさせる方法であって、

ｉ）　前記アルカリ金属のテトラキス（^{F}アリール）ホウ酸塩を単離することなく前記液状のエーテル媒体または液状のヒドロカルビル媒体を少なくとも１種のハロゲン置換炭化水素で置換することで新しいスラリーまたは溶液を生じさせ、そして

ｉｉ）　ｉ）で生じさせた前記新しいスラリーまたは溶液の少なくとも一部を

ａ）　プロトン性アンモニウムカチオンが式［R_3NH］$^{+}$［式中、各Ｒは独立して炭素原子を３０個以下の数で含有するヒドロカルビル基である］で表されるプロトン性アンモニウム塩、

ｂ）　オニウムカチオンが式［ER_n］$^{+}$［式中、Ｅは周期律表の１５－１７族のいずれかの元素であり、各Ｒは独立して炭素原子を３０個以下の数で含有するヒドロカルビル基であり、そしてｎはＥの原子価＋１に相当する］で表されるオニウム塩、および

ｃ）　トリアリールメチルカチオンが中心の炭素原子と結合しているアリール基を３個有するトリアリールメチル塩、

から選択した塩と一緒に混合することを含んで成る方法。

２．　前記ハロゲン置換炭化水素がジクロロメタン、トリクロロメタンまたは１，２－ジクロロエタンである上記１記載の方法。

３．　前記ハロゲン置換炭化水素がジクロロメタンである上記２記載の方法。

４．　前記アルカリ金属のテトラキス（^{F}アリール）ホウ酸塩がテトラキス（^{F}アリール）ホウ酸ナトリウムもしくはカリウムである上記１記載の方法。

５．　前記アルカリ金属のテトラキス（^{F}アリール）ホウ酸塩がテトラキス（^{F}アリール）ホウ酸カリウムである上記４記載の方法。

６．　前記アルカリ金属のテトラキス（^{F}アリール）ホウ酸塩がテトラキス（^{F}アリール

）ホウ酸ナトリウムもしくはカリウムでありそして前記ハロゲン置換炭化水素がジクロロメタン、トリクロロメタンまたは１，２－ジクロロエタンである上記１記載の方法。
７．　前記^{F}アリール基の芳香環がフェニル環である上記１記載の方法。
８．　前記アリール基の前記芳香環１個または２個以上が有する全部の位置がフッ素原子で置換されている上記１記載の方法。
９．　前記テトラキス（^{F}アリール）ホウ酸塩がテトラキス（ペンタフルオロフェニル）ホウ酸塩である上記８記載の方法。
１０．　前記アルカリ金属のテトラキス（^{F}アリール）ホウ酸塩がテトラキス（ペンタフルオロフェニル）ホウ酸ナトリウムまたはテトラキス（ペンタフルオロフェニル）ホウ酸カリウムである上記９記載の方法。
１１．　前記アルカリ金属のテトラキス（^{F}アリール）ホウ酸塩がテトラキス（ペンタフルオロフェニル）ホウ酸ナトリウムまたはテトラキス（ペンタフルオロフェニル）ホウ酸カリウムでありそして前記ハロゲン置換炭化水素がジクロロメタン、トリクロロメタンまたは１，２－ジクロロエタンである上記１記載の方法。
１２．　前記アルカリ金属のテトラキス（^{F}アリール）ホウ酸塩がテトラキス（ペンタフルオロフェニル）ホウ酸カリウムでありそして前記ハロゲン置換炭化水素がジクロロメタンである上記１１記載の方法。
１３．　前記塩がプロトン性アンモニウム塩である上記１記載の方法。
１４．　前記プロトン性アンモニウムカチオンの少なくとも１個のＲ基がフェニル基である上記１３記載の方法。
１５．　前記プロトン性アンモニウムカチオンがフェニル（ジメチル）アンモニウムカチオンである上記１３記載の方法。
１６．　前記プロトン性アンモニウムカチオンがトリ（ｎ－オクチル）アンモニウムカチオンである上記１３記載の方法。
１７．　前記アルカリ金属のテトラキス（^{F}アリール）ホウ酸塩がテトラキス（ペンタフルオロフェニル）ホウ酸ナトリウムまたはテトラキス（ペンタフルオロフェニル）ホウ酸カリウムでありそして前記塩がプロトン性アンモニウム塩である上記１記載の方法。
１８．　前記プロトン性アンモニウムカチオンの少なくとも１個のＲ基がフェニル基である上記１７記載の方法。
１９．　前記プロトン性アンモニウムカチオンがフェニル（ジメチル）アンモニウムカチオンである上記１７記載の方法。
２０．　前記プロトン性アンモニウムカチオンがトリ（ｎ－オクチル）アンモニウムカチオンである上記１７記載の方法。
２１．　前記アルカリ金属のテトラキス（^{F}アリール）ホウ酸塩がテトラキス（ペンタフルオロフェニル）ホウ酸ナトリウムまたはテトラキス（ペンタフルオロフェニル）ホウ酸カリウムであり、前記ハロゲン置換炭化水素がジクロロメタン、トリクロロメタンまたは１，２－ジクロロエタンであり、前記塩がプロトン性アンモニウム塩でありそして前記プロトン性アンモニウムカチオンがフェニル（ジメチル）アンモニウムカチオンである上記１記載の方法。
２２．　前記アルカリ金属のテトラキス（^{F}アリール）ホウ酸塩がテトラキス（ペンタフルオロフェニル）ホウ酸ナトリウムまたはテトラキス（ペンタフルオロフェニル）ホウ酸カリウムであり、前記ハロゲン置換炭化水素がジクロロメタン、トリクロロメタンまたは１，２－ジクロロエタンであり、前記塩がプロトン性アンモニウム塩でありそして前記プロトン性アンモニウムカチオンがトリ（ｎ－オクチル）アンモニウムカチオンである上記１記載の方法。
２３．　前記塩がオニウム塩である上記１記載の方法。
２４．　前記オニウムカチオンの少なくとも１個のＲ基がフェニル基である上記２３記載の方法。
２５．　前記オニウムカチオンのＲ基の全部が同じである上記２２記載の方法。
２６．　前記オニウム塩がジフェニルヨードニウム塩である上記２４記載の方法。

２７．　前記アルカリ金属のテトラキス（^{F}アリール）ホウ酸塩がテトラキス（ペンタフルオロフェニル）ホウ酸ナトリウムまたはテトラキス（ペンタフルオロフェニル）ホウ酸カリウムでありそして前記塩がオニウム塩である上記１記載の方法。
２８．　前記オニウムカチオンの少なくとも１個のＲ基がフェニル基である上記２７記載の方法。
２９．　前記オニウム塩がジフェニルヨードニウム塩である上記２７記載の方法。
３０．　前記アルカリ金属のテトラキス（^{F}アリール）ホウ酸塩がテトラキス（ペンタフルオロフェニル）ホウ酸ナトリウムまたはテトラキス（ペンタフルオロフェニル）ホウ酸カリウムであり、前記ハロゲン置換炭化水素がジクロロメタン、トリクロロメタンまたは１，２－ジクロロエタンであり、前記塩がオニウム塩でありそして前記オニウム塩がジフェニルヨードニウム塩である上記１記載の方法。
３１．　前記塩がトリアリールメチル塩である上記１記載の方法。
３２．　前記トリアリールメチルカチオンの少なくとも１個のアリール基がフェニル基である上記３１記載の方法。
３３．　前記トリアリールメチルカチオンがトリフェニルメチルカチオンである上記３２記載の方法。
３４．　前記アルカリ金属のテトラキス（^{F}アリール）ホウ酸塩がテトラキス（ペンタフルオロフェニル）ホウ酸ナトリウムまたはテトラキス（ペンタフルオロフェニル）ホウ酸カリウムでありそして前記塩がトリアリールメチル塩である上記１記載の方法。
３５．　前記トリアリールメチルカチオンの少なくとも１個のアリール基がフェニル基である上記３４記載の方法。
３６．　前記トリアリールメチルカチオンがトリフェニルメチルカチオンである上記３４記載の方法。
３７．　前記アルカリ金属のテトラキス（^{F}アリール）ホウ酸塩がテトラキス（ペンタフルオロフェニル）ホウ酸ナトリウムまたはテトラキス（ペンタフルオロフェニル）ホウ酸カリウムであり、前記ハロゲン置換炭化水素がジクロロメタン、トリクロロメタンまたは１，２－ジクロロエタンであり、前記塩がトリアリールメチル塩でありそして前記トリアリールメチルカチオンがトリフェニルメチルカチオンである上記１記載の方法。
３８．　前記アルカリ金属のテトラキス（^{F}アリール）ホウ酸塩がテトラキス（ペンタフルオロフェニル）ホウ酸カリウムでありそして前記ハロゲン置換炭化水素がジクロロメタンである上記３７記載の方法。
３９．　前記アルカリ金属のテトラキス（^{F}アリール）ホウ酸塩の少なくとも一部と前記塩を一緒に混合する時が室温である上記１記載の方法。